

Case Study

支部ケース・スタディ

四国支部

開局以来35年間・想いはひとつ 地域と共に歩むケーブルテレビでありたい

(株)テレビ鳴門

制作課係長

村澤 啓介



株式会社テレビ鳴門(徳島県鳴門市、代表取締役 中岸敏昭)は、1984年11月1日に開局し、人口57,021人(2019年10月末現在)の鳴門市全域をサービスエリアとしています。常勤は19名で、制作スタッフは5名です。ニュース番組やスポーツ番組、講演会やお祭り等、前年までの取材スケジュールをもとに1年間を通して様々な取材におじゃましています。また、お客様からの急な取材依頼に対しても可能な限り柔軟に対応するように心掛けております。その中でも開局以来、スタッフの全精力をつぎ込み、大切なコンテンツとして取材を続けているのが学校行事です。

地域密着だからこそできる卒業記念番組

当社では、毎年2月に鳴門市内の小学校に通い、その年の春に卒業を迎える児童を対象に、その児童が1年生から6年生の卒業前まで、入学式に始まり、運動会や校内イベント、また鳴門市連合音楽会など、6年間の映像を3時間に纏め、「思い出の映像のアルバム」とも呼べる番組を放送しております。

当社は開局当初より地域密着を何よりも重点に置いて番組制作を行っており、加入者・視聴者のメリット及び要望を勘案し、現在エリア内の保育所(16所)・幼稚園(13園)・小学校(13校)・中学校(5校)・高等学校(2校)となっている各所の学校行事(入学式・運動会・文化祭・音楽会・卒業式等)を撮影、長尺番組(2~3時間枠)として、お子様の学校生活における思い出の1ページをコミュニティチャンネルでお届けしてきました。

その長尺番組を活用・再編集し、3月に卒業される児童の皆さんの出演している各場面を纏めて「卒業記念番組『6年間の思い出』」を制作しています。

これは、毎年途切れることなく学校行事を撮影しなくては制作できない番組であり、まさに地域密着の集大成と言える番組となっています。

(1)各校・教育機関との信頼関係

この番組制作において、何よりの根幹をなすのが、各校・教育機関との信頼関係です。プライバシーの侵害など、学校関係の収録及び放送に全国的に規制が生じている昨今、学校側の協力なしには実現し得ないコンテンツであります。

開局以来35年、撮影対象となる行事がある度に、アポイントメントの上、担当スタッフが学校に出向き、入念な打ち合わせや要望などの聞き取りを行ってから撮影に臨んでおります。

そして、撮影は外部委託することがありますが、編集は自社内で賄っており、収録中のアクシデントなどにより、演者・映っている方が不快感を覚えるような場面については、カットするなど、十分な配慮を講じて放送するように心掛けております。

その結果、教職員・PTAはじめ、地域の方々などに当社の理念をご理解いただき、皆様方の支え、ご協力あつての賜物とも言える番組制作が実現できております。



卒業記念番組タイトル

学校側も「記憶よりも記録」、それぞれの行事において、運営の流れの記録資料として重宝していただいている。保護者も自らのカメラワークでは、後で観たら、子どもは撮影できていても、何をしている場面なのか分からなかったという例もあつたりと、当社の映像を高く評価していただいております。

例年の状況を把握していない市外から異動してきた校長が、取材許可に二の足を踏んでいた際に保護者から助言があり、無事に承認いただけただという逸話もあります。そして、ベストポジションでの撮影への要望に快く応じていただけるなど、当社としても非常に助かっております。

(2)撮影人員と機材の調整

次に、学校行事を撮影する際に注意していることは、人員と機材の調整になります。運動会において、同じ日に8校開催という事例もあり、天候によっては翌日または翌週に延期になったこともあり、それに合わせてのスケジュール管理が必要になってきます。

また、入学式や卒業式に関しては、特に市内の公立小学校では、全ての学校で同じ日の同じ時間に挙行されます。卒業式の撮影には、かつて他部署の社員も収録に臨む、まさに社内挙げての一大イベントとなっていました。現在でも、これらの収録をカバーするために、外部委託したスタッフと、式典の流れはもとより、学校側からの注意事項などをしっかり申し送り、打ち合わせしてから撮影に臨むようにしております。

スタッフ確保に努力しているとはいえ、人数やコスト面などを事由に、現場1カ所につき、カメラマン1名での体制で臨むことが多くあります。厳しい残暑の中で行われる運動会でも1クルー1名で現場入りして、最後まで撮影することもあり、それを遂行するために、それぞれのスタッフがストイックに体調管理に努めてきたというバックヤードもあります。

また、当社が撮影するようになってから最盛期には18校あった小学校が、鳴門市も少子化の波が打ち寄せ、近年ではその内の5校が休校・統合となっております。そのような場合は、休校・統合になった小学校に在籍していた児童が卒業する年に、休校・統合以前の学校行事の映像を、その学校単位で編集し「思い出の映像」として、ご覧いただいたこともありました。

このように、視聴者ニーズを汲み、市民の人生の節目節目を撮影・放送していることもあり、視聴者ニーズとして、多くの方に喜んでいただいているものと感じております。実際、長尺番組の放送日時問い合わせやリクエスト放送の要望も多数寄せられていることも、その評価と一端ではないかと思っております。

そして、学校行事のみならず、PTA綱引き大会、成人式や芸能祭、地域のお祭りやイベントなども撮影しており、お客様からは「テレビ鳴門のコミュニティチャンネルに合わせると知り合いの誰かが映っているんでよく見ている。」といった「声」も寄せいただいております。それを

当社の番組制作の長所として捉え、変化する世相、社会のルールに適合しながら、視聴者ニーズとは何かを考



運動会



学習表現会



休校式



入学式



編集作業



テレビ鳴門の
マスコットキャラクター
「ムヤくん」

え、期待に応えられるよう精進して参りたいと思っております。

テレビ鳴門マスコットキャラクター「ムヤくん」

「まるーいお顔に、まる〜いカラダ『ムヤくん』目ヂカラ120%!」がキャッチコピー! まんまるフワフワお腹がたまらない、思わず抱きつきたくなる癒やし系、テレビ鳴門のマスコットキャラクター「ムヤくん」は、2014年11月1日に開局30周年が誕生し、今年で5歳になります。

開局の地、そして現在の社屋のある鳴門市撫養町が名前の由来で、猫として生まれたのは、ケーブルテレビ事業(CATV)の発展を願い、猫(Cat)と勝利(victory)に肖っています。

そして、当社の代表取締役 井川哲会長が、大の猫好きというのも出生のルーツでもあります。ムヤくんの好物は、井川会長と作る「いも煮」という設定で、猫がいも煮を食べるのかと疑問も沸きますが、その辺りはご愛敬。井川会長もムヤくんの応援団長として、積極的に地元市民はじめ、経済界などにPR活動を展開し、認知度も日に日にアップしていった経緯があります。

また、デザインも元社員が手掛けており、手に取ると思わず微笑んでしまう携帯クリーナーストラップをはじめ、ステッカー、LINEスタンプも作成、さらに特徴ある11体の猫ファミリーとして、コミュニティチャンネルや広報誌、社用車のステッカーなどに登場しています。

ムヤくんの活動として、2016年4月「鳴門市公認キャラクター」に任命され、鳴門市公式キャラクター「うずしおくん・うずひめちゃん」などと共に、鳴門市主催のイベントをはじめ、サッカーJ2・徳島ヴォルティスのホームゲーム、淡路島をはじめ、市内外で観光PRに参加、鳴門市保険課の特定健診受診促進ポスターなどにも“出演”してきました。

そして、平日・週末問わず、学校行事や身体障がい者・福祉施設での催し、まさに“ドローカル”イベントと呼ばれるような地域のお祭りなどにも登場し、地域の活性化の一役も担っており、今年は10月末現在で約30回の“出動”がありました。特に子ども達には、大人気でチャームポイントのヒゲを守るのに必死です。

さらに2016年9月には、それまでの子ども達やお年寄りを対象にした交通安全PR活動の実績が認められ、鳴門警察署から「鳴門市交通安全大使」にも任命されています。

その他、ゆるキャラグランプリにも2016・2017・2018年に出場し、全国から多くの得票をいただくことができました。また2018年には、とくしまご当地グルメフェスティバル・第4回ご当地キャラクター大相撲大会徳島場所において、徳島県内16体と競い、優勝を果たしたこともあります。

「ムヤくんの活動」については、アテンド含めたクルーも社員で担当しております。これら会社営業として、直接、功を奏するものではないかもしれませんが、今後とも地域のイベントなどに「元気に参加して、地域を盛り上げていきたい!」そして、地域に育てられ、愛される会社・キャラクターとして精進していきたいと思っております。



地域イベント「黒崎っ子花まつり」でも大人気



サッカーJ2・徳島ヴォルティスのホームゲームにも“出演”

